

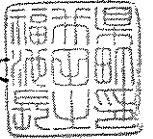


池建第 492 号  
平成 19 年 5 月 8 日

国土交通省道路局長 殿

福井県池田町長

杉本 博文



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について (回答)

新緑の候 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また日頃から、道路事業につきましては、何かと御尽力をいただき厚く御礼申し上げます。

つきましては、中期的な計画の作成にあたっての意見を別紙のとおり提出させていただきますのでよろしくお願いいたします。

## 道は「毎日を支える・交わりを促す・安心を固める」生活基盤のネット

福井県池田町長 杉本 博文

池田町は県下一人口の少ない3,400人、県下一高い高齢化率38%の小さな過疎の山村ですが、町民と行政との「協働のまちおこし」事業が評価され、環境向上活動において環境大臣賞、環境活動と農業を有機的につなげた活動において農林水産大臣賞、農村の生活文化と農業の営みを観光資源とした観光ポスターにて国土交通大臣賞を受賞しました。

今後は「協働する力を共同の利益」へとさらにつなげるよう努力を重ねてまいりたいと考えています。

しかし、池田町の日々の暮らしや産業振興に、不安や支障がないものではありません。平成16年7月の福井豪雨の際には、町外と結ぶ4本の道路が全て通行不能となり、町全域が三日間孤立状態の異常事態となりました。また平成17年12月の豪雪時においても一時全線通行止めとなるなど、町民の通勤通学や生活物資の確保、さらには緊急救急時に対する大きな支障と精神的不安を残すことになりました。

町民はこれらのことなどから、日々あたりまえのように利用する道路の価値、恩恵を改めて思い知らされるとともに、その安全性の確保に強い関心と要求の意識が生まれたのであります。

また、現在、池田町においては「自然資源、農村資源の観光化」「農林資源の商品化」「ひと(人)資源のネット化」をテーマにまちづくりを進めながら、所得の確保や起業チャレンジの支援などを実施して、自前による生き残りを図っています。

池田町の振興を考える時、IT企業などの進出や民活依存などは期待できないのが現状であり、「自らの資源を自らの力で活かす」知恵と工夫、連携と努力のみちを行くしかないのです。

そのためには、毎日の暮らしを支える道、交流人口を促す道、安全安心を固める道づくりが必要不可欠であり、道づくりは行政の責務と考えています。

また、これまでの道づくりは、中央へ、中心部へとつなぐ縦の道づくりであったといえますが、これからは中心部を経由する隣の関係から、直接連携する隣の関係へとつなぐ横の道づくりが重要であります。そして横への道づくりは地方再チャレンジのための基礎的社会資本として重要な時代を迎えているといえます。

以上のような見地から、池田町においては、隣の岐阜県揖斐川町へつなぐ国道417号冠山トンネルの早期開通を強く要請するとともに、道路特定財源については制度主旨に則り、全額を道路整備と道路の維持保全、さらには災害、雪害に強い道づくり、電柱埋設などの道路景観の美化向上等にあてるよう強く要請します。